

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【社会】

掲載数

55

| 地区    | 学年 | 教科等 | テーマ                | 内容   | 参考事項（講師・教材等）   |
|-------|----|-----|--------------------|--|--|
| 1 川崎市 | 小4 | 社会  | 防災教育               | 大きな災害が起こったときどこに逃げるか、何をもっていくか、家族とどこで出会うかなどを、話し合い活動を通して学習を行った。また、学校の体育館や公共施設などでの避難所生活や地域の方の役割などを学んだ。そこでのルールやマナー、助け合いの様子について初めて知ったことが多く、驚く様子が見られた。災害時だけではなく、普段の生活でも、自分たちに何ができるか考えた。   | 教科書(教育出版)<br>「自然災害にそなえるまちづくり」  |
| 2 川崎市 | 小3 | 社会  | 防災教育               | 社会科「まちの安全を守る」火事をふせぐためのさまざまな工夫を知ったり人々の思いにふれたりして、自分たちにできることは何かを考えた。日頃から行っている校内の避難訓練の重要性を改めて実感し、これからも真剣に取り組みたいと考えていた。自分たちの町を自分たちで守ることの大切さについても気づいていた。   |  |
| 3 川崎市 | 小4 | 社会  | 自然災害にそなえるまちづくり     | 災害が起きたときどんな危険が潜んでいるか考えた。地震、台風、大雨など災害の種類によって起こる問題が違うことに気付いていた。災害が起きる前や起きた後に、誰がどのようなことをしているか調べた。宮前区役所や川崎市がマップを作ったり、災害時には関係各所に指示したりするなど、自治体が大切な役割を担っていることを知って驚く様子が見られた。また、普段気にしていない公園の防災倉庫に着目している児童もいて、身近に災害時の取り組みを感じているようだった。普段の生活の中でも、「非常食を貯えて置く必要がある」「親と災害時に集まる場所を決めておく必要がある」など、自分たちのいのちを守るために何ができるか具体的に考えていた。 | 宮前区の方からいただいた資料を活用した。教科書にない自分が住む区の資料なので、具体的なイメージがもてた。<br>(参考資料) 内水 ハザードマップ、意識と準備が命を守る!、宮前区防災マップ |
| 4 川崎市 | 小4 | 社会  | 防災「自然災害にそなえるまちづくり」 | 災害が起きた時に市役所や消防署、警察を中心として市民の命をどのようにして守っているかを学習した。それをきっかけとして地域の防災の取り組みを学習し、いざという時に役立てるように学んだ。また、普段からどのような備えが必要かを話し合い、意見交換や調べ学習を通して自分のいのちを守るためにできることを実践できるようにした。  | 授業者：担任<br>教材：「川崎市に大地震が起きた日」  |
| 5 川崎市 | 小4 | 社会  | 地震に備える町づくり         | 社会科の学習で、自然災害について学習を行った。日本には多くの自然災害があり、その不可抗力について日本人が取り組んでいくべき課題について学習した。特に、施設面での安心安全を目指すだけでなく、人的な観点から私たちがどのように命を守ればよいかについてみんなで考える場面を設けた。普段の避難訓練や、非常食の確保など、自分たちが行っている訓練の重要性を認識した。その上で、自分たちができる防災の取り組みについて考えることが命を守ることに繋がると考えられていた。  | 川崎市消防局「みんなが消防士」講師のお話を元に、災害に立ち向かうためのお話を聞いた。   |

|    |      |    |    |                    |   |                                 |
|----|------|----|----|--------------------|---|---------------------------------|
| 6  | 相模原市 | 小4 | 社会 | 自然災害にそなえるまちづくり     | 自然災害から命を守るために「町田市金森調整池」を見学に行った。工事現場の人から話を聞いたり、実際の工事を見たりすることで、命を守るために取り組んでいることを体験的に学ぶことができた。   |                                 |
| 7  | 相模原市 | 小6 | 社会 | 戦争が残したもの           | 太平洋戦争に至るまでの世界の動きを知り、日本が受けた戦争の被害を学習する。また、戦争が現在の世の中にもたらしたものや考え方を知り、今後の生き方について考える。   | NHK for school                  |
| 8  | 相模原市 | 小3 | 社会 | 社会・防災教育「ファイアースクール」 | 火事の主な原因は何か、火事が起きたときにはどんな行動をするべきかなど、実際に消防署の職員に来ていただき、お話いただいた。その後、児童は、煙体験や110番電話体験をした。煙が充満した中では、ほとんど周りが見えず、壁をつたいながらでないと歩くことが難しいこと、きちんとハンカチで口・鼻を覆わないと苦しくなってしまうことを身をもって感じた。体験後に行われた避難訓練では、その学びを活かして、口・鼻をハンカチできちんと覆い、かがみ、壁を触りながら移動する様子が見受けられた。 | 講師は消防署の職員にお願いし、講話・体験合わせて2時間行った。 |
| 9  | 相模原市 | 小6 | 社会 | 戦争と人々の暮らし          | 社会科の学習を通して、戦争の悲惨さやその当時の人々の生活を学ぶとともに、命や将来について考える場面を設定した。その際、道徳「白旗の少女」での学びともつなげ、戦争という言葉の一般的なイメージや印象だけでなく、多くの情報や客観的事実から児童が命や将来について考えられるような授業づくりをした。<br>命の大切さだけでなく、どのような行動、考え方をすることがよりよい生き方につながるかを児童が考えることができた。                               | 道徳6年（東京書籍）<br>「白旗の少女」           |
| 10 | 相模原市 | 小3 | 社会 | 命を守る               | 社会科の「火事からまちを守る」の学習で、津久井消防署による【ファイアースクール】を実施した。火事で命をなくす怖さや相模原市の状況を知った上で、命を守る行動をとる学習をした。体験学習を通し、命の尊さや自分の身は自分で守る大切さを学んだ。   | 津久井消防署                          |

|    |      |    |    |                                |   |   |
|----|------|----|----|--------------------------------|---|---|
| 11 | 相模原市 | 小6 | 社会 | わたしたちの暮らしを支える政治～政治と福祉の関係を調べよう～ | <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民分野の1単元目で日本の政治の大まかな仕組みを学習した。それを受けて、具体的な日常生活に関わる事項(主に福祉分野)と政治の関係について調べ、まとめる活動を行った。</li> </ul> <p>(具体的な流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少子化」「高齢化」「人口減」3つのテーマの中で興味のある分野を各自1つ選択をする。</li> <li>・教科書を中心にそれぞれのテーマについて、はじめに内容を理解する。</li> <li>・PCを使いながら全国の各自治体における取り組みを調べる。</li> <li>・内容は全てChromebookのスライドを使ってまとめる。</li> <li>・聞き手に伝わりやすいような編集を意識して行う。</li> </ul> <p>(取り組みを終えて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習を1分野に絞ることによって、より深く内容を掘り下げることができた。</li> <li>・ジグソー学習のようにそれぞれの分野で調べたことを伝え合うことによって、他分野の理解を深めることもできた。</li> <li>・普段意識することのない「少子化」「高齢化」などの内容に意識を向け考える良いきっかけとなった。</li> <li>・スライドを使って、相手意識をもったまとめができたことによって、理解を深めることができた。</li> </ul> | 社会科公民分野<br>『2 わたしたちの暮らしを支える政治』<br>(『小学 社会6』教育出版 令和2年1月)                           |
| 12 | 相模原市 | 小4 | 社会 | 命を守るために                        | 本校は、土砂災害による被災によって、仮設校舎で学習している。災害に備えるためには、どのように行動すれば自分の命を自分で守ることができるのか考え、「マイ・タイムライン」を作成した。   | 相模原市緑区役所<br>地域振興課 職員  |
| 13 | 相模原市 | 小3 | 社会 | 「ファイヤースクール」<br>防災教育            | 体育館で、火災発生時に命を守る具体的な方法や火災発生場面について話を伺った後、3グループに分かれ、煙体験・消火器体験・電話での通報体験を行った。炎だけでなく煙の危険性について初めて知る児童も多く、驚く姿が見られた。授業後の振り返りでは、自分や周りの人の命を守るために、自分にはどのような行動ができるかを考える姿があった。  | 消防署の職員を講師に招き、火災発生時の具体的な避難方法について学ぶことができた。<br>参考教材：相模原市教育委員会「防災ガイドブック 災害 ―その時 私たちは― |
| 14 | 横須賀市 | 小4 | 社会 | 自分の命は自分で守る                     | <p>自助・共助・公助それぞれの役割の大切さをとらえた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自助は、自分の命は自分で守ること。</li> <li>・共助は、学校や地域で助け合って守ること。</li> <li>・公助は、市や県、国などによる助け。</li> </ul> <p>この3助の役割が果たされることで、大地震の被害を最小限にすることができることを理解した。<br/>子供たちは、命を守るための取り組みや備えがあることを知り、改めて命の大切さを感じていた。</p>   |   |

|    |      |    |    |                                 |  |                                 |
|----|------|----|----|---------------------------------|--|---------------------------------|
| 15 | 横須賀市 | 小4 | 社会 | 单元名「自然災害から暮らしを守る」               | 社会科の学習で、自然災害にはどのようなものがあるか、神奈川県ではこれまでにどのような自然災害が起こったかなど概要を学んだ。その上で、「自助」「共助」「公助」をキーワードに災害にどのような備えをしたら良いのか、また市としてどのような備えがされているのか、起震車による体験や市役所の方からのお話や学校にある防災倉庫の見学から学び、災害時の命を守るための備えや行動について理解を深めた。   | 市役所危機管理課職員／消防署職員・地震体験車（起震車）     |
| 16 | 横須賀市 | 小6 | 社会 | 平和教育                            | 戦争時の国民の暮らしや戦争の悲劇などを写真資料や戦争体験者の声を活用して時代背景の読み取りを行った。長く続いた戦争を当時の国民の視点で考えていくことで命の大切さや平和のありがたみについて思考を深めていた。戦争は誰もが悲しみ、二度と同じことがあってはいけなと未来に向けて自分たちができることや伝えていきたい思いをまとめていた。   | 東京書籍6年社会「長く続いた戦争と人々の暮らし」原爆ドーム資料 |
| 17 | 横須賀市 | 小6 | 社会 | わたしたちの生活と政治<br>「震災復興の願いを実現する政治」 | 社会科で東日本大震災の発生から復旧・復興の学習をした。災害にあった人々の願いは、どのような人たち、どのような働きで実現されていったのかを予想し、話し合った。市や県、国がどんな働きをしたのかを調べ、それぞれの役割について学んだ。まちづくりを進めていくうえで、大切なことはなにか、考えることができた。<br>また1月に能登半島地震が発生したことから、復習を行った。災害後どのような人がどのような働きをしているか、もう一度、考えることができた。  | 新しい社会6（政治・国際編）資料集               |
| 18 | 湘南三浦 | 小5 | 社会 | 自然災害                            | 「自然災害」の単元で、長崎普賢岳の火砕流、中国地方を襲った集中豪雨による水害・土砂崩れ、阪神大震災での大都市での震災、東日本大震災での津波等、生まれる前に起こった災害について画像を通じて、予告もなく突然襲ってくる非日常の恐ろしさを学習した。防ぎようはないが減災することは可能であり、命を守る努力の大切さを学んだ。正月の石川県の震災には自分たちの街と照らし合わせながら真剣に心配する姿が見られた。  |                                 |
| 19 | 湘南三浦 | 小3 | 社会 | 地域の安全を守る                        | 消防署の分布や、消火栓や火災報知器、消防水利、消防団、倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通知指令室を中心とするネットワークなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、消防署や地域の人々の諸活動を理解する。<br>調べたことを白地図や関係図にまとめ、消防署を中心に警察署など関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火事などの防止に努めていることを理解する。<br>学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできること、命の大切さ、について考える。 | 消防署の職員                          |
| 20 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 防災教育                            | 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じた的確な判断のもとに自らの安全を確保するための行動ができるようにする。また、様々な立場（高齢者・障害のある人など）と共に避難する時の接し方などを学ぶ。   | 防災士                             |

|    |      |    |    |                                 |  |  |
|----|------|----|----|---------------------------------|--|--|
| 21 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 自然災害にそなえるまちづくり                  | 過去に起きた災害を映像で見て災害の恐ろしさを知り、防災の大切さを学んだ。また、防災にはどのような機関が関わっているかを調べたり、ハザードマップを確認したりして、藤沢で災害が起きた際にどのように避難すれば良いかをグループで考え、クラス全体で共有した。そして、自分の命は自分で守るということを意識させるようにした。  |  |
| 22 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 防災教育<br>「地震にそなえるまちづくり」<br>起震車体験 | 講師による防災講話や防災倉庫の確認、起震車の体験をした。防災講話では、片瀬地区の防災への取り組みや地震・津波に関する知識の説明を受けた。また、起震車体験では、震度を体験することでどれほどの災害が起こるのかイメージできたり、発生時の適切な行動について考える契機となった。   | (講師) 片瀬市民センター職員、藤沢市役所危機管理課職員<br>(参考資料) 動画(東京管区気象台、国土地理院) |
| 23 | 湘南三浦 | 小6 | 社会 | 防災<br>クロスロード                    | もし大災害が起きてしまったら、「自分はどう行動するか」を考え、いのちを守るための方法について、保護者を交えて話し合った。東日本大震災を知らない児童らに、保護者はそのとき何をしていたのか、体験談を語ってもらった。関東大震災のときの学区の状況写真を見ながら、これからの災害に備えて自分たちにできることを考えた。クロスロードという、正解の無い二択の問いについて自分なら(家族なら)どうするかを考え、いつか起こりうる災害について備えることができた。                                     | (使用教材)<br>災害対応カードゲーム<br>教材「クロスロード」                       |
| 24 | 湘南三浦 | 小6 | 社会 | 戦争と人々の暮らし                       | 日中戦争から第二次世界大戦、太平洋戦争までの間に人々の暮らしが戦争によってどう変化したかを教科書や写真、動画等で学習した。その中でたくさんの人々の命が戦争で失われたことを知り、平和な時代を生きる今、また、たくさん命が失われることがないよう自分たち一人一人ができることについて話し合い意見を交流した。  |  |
| 25 | 湘南三浦 | 小5 | 社会 | これからの食料生産                       | 食料の輸入や輸出を考えると、世界の食糧生産のバランスを考えなければいけないことを考えた。地球環境保全の考えからも、世界の増大する人口に対して、食料生産を世界的に確保していかなければならないことを学んだ。また、戦争、災害や事故などによって食料生産のバランスが崩れることから、各国の平和的な関係を築くことの大切さを学んだ。  |  |
| 26 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 防災教育<br>「自然災害にそなえるまちづくり」        | 地震、台風、大雨など多くの児童が経験したことがある自然災害と、それらから地域の安全を守るための諸活動について扱った。自然災害に備えるために、自分たちの身の周りではどのような取り組みが行われているのかにふれ、児童が自分事として考えられるよう学習を進めた。学習のまとめとしては、本やインターネットを活用して新聞作りをしたり、校内学習発表会で3年生に学んだことを伝えたりと、理解したことを自分たちでまとめる技能も身につけられた。単元を通して、普段の生活の中でも災害に備えて自分たちには何ができるか考え出した児童もいた。 |  |

|    |      |    |    |                      |  |                                   |
|----|------|----|----|----------------------|--|-----------------------------------|
| 27 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 自然災害に備える             | <p>自然災害とは何かを知り、地震や水害でどのような被害が起こりうるのかを考え学んだ。また、「そのような自然災害が起こる前にどのような対策が国や自治体でされているのか」、「自分たちができる備えは何か」、「災害が起きた場合に、どのような方法で身を守るのか」について考えた。学習を終え、普段から自分たちの身の回りで行われている備えには何があるのかについて話したり、家での備えを家族と見直したりする児童の姿が見られ、命を守るためにできることをしようという意欲を持つことができた。</p>   | (使用教材)<br>教育出版・社会4年<br>「自然災害に備える」 |
| 28 | 湘南三浦 | 小3 | 社会 | 地域の安全を守る             | <p>地域の安全を守る学習を通して、警察や消防の方たち、また安全ボランティアの方たちの仕事を学んだ。警察の方たちは、学校に来て話をしてもらい体験をさせていただいた。また消防出張所へ見学に行き、24時間体制で町の安全のために働いている様子を知ることが出来た。自分たちが安全に生活出来ているのは、こうして支えてくれている人々や施設、設備のおかげだということ学んだ。</p>   | 警察署の方々<br>消防署の方々                  |
| 29 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 防災教育<br>「地震からいのちを守る」 | <p>災害時にまず自分の命を守るためには、何をすればいいかを深く考えた。慶應義塾大学の先生や学生さんに来ていただき、防災についての授業をもうけた。</p>  | 講師は慶應義塾大学<br>環境情報学部 准教授           |
| 30 | 湘南三浦 | 小6 | 社会 | 防災教育<br>「地震からいのちを守る」 | <p>普段、行われる簡単な避難訓練とは別に「もし、ガラスが割れたら」「もし、道が崩れていたら」「もし、人が倒れていたら」など、より一層リアルな環境で命を守ることの大切さを考えた。</p>  |                                   |
| 31 | 湘南三浦 | 小5 | 社会 | 地震と火事における防災教育        | <p>地震と火事を自分事と捉えるため、市の防災センターへ見学へ行った。実際に避難所にもなっており東日本大震災では多くの方が避難してきたことを学んだ。新聞紙を使い、避難所生活で役に立つ防災道具の作成方法を学んだ。<br/>地震体験、火災体験を行い、実際に被災した際、どのように行動をとるべきか学んだ。災害とは常に隣り合わせであることに気がつき、災害に関する学びを深めた。</p>   | 講師は地震や火災に詳しい防災センター職員。             |
| 32 | 湘南三浦 | 小3 | 社会 | 暮らしを守る人々             | <p>社会科で、自分たちの町を自ら守り、豊かに暮らしていける環境を作るために、警察署、消防署で働く人々の考えやその取組の様子を学んだ。また、その学習を通して、「いのち」を尊重する心を学ぶとともに、自ら「いのち」を守るための行動についても、防災訓練等の機会を生かしながら学んだ。</p>   |                                   |
| 33 | 湘南三浦 | 小6 | 社会 | 平和といのちの尊さ            | <p>第二次世界大戦で犠牲となった特攻隊を叔父に持つ女性の話聞き、いのちの尊さを考える授業。子犬を抱く笑顔の少年兵たちが映る1枚の写真がある。どんな場面か講師は子どもたちに考えさせた。それは、戦争が終わりホッとしているのではなく、なんと出撃2時間前の特攻飛行兵たちの様子だという。その写真の中でも屈託ない笑顔を見せる叔父。太平洋戦争の時代背景、沖縄戦と特攻、三浦市内にも多々あった海上特攻兵器と特攻基地。そして憲法九条。17歳で亡くなった叔父の写真、遺品や遺書を交えながら、語っていただいた。「死が迫ったとき、あなたは微笑むことができますか?」。若くして亡くなった少年兵のことを思い、涙する子供たちも。今も続くウクライナやイスラエルの戦争のことを案じたり、いのちの尊さについて再確認したりできた。</p> | 講師：戦争犠牲者の遺族                       |

|    |      |    |    |                    |   |   |
|----|------|----|----|--------------------|---|---|
| 34 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 防災教育<br>「自然災害に備える」 | 日本は災害大国であり、児童が住む三浦市でも、いつ大きな自然災害が起きてもおかしくない。災害があった際には、自分で身の安全を確保できるような行動が求められる。そこで、社会科の授業で横浜市防災センターへ行き、災害についての講話を聞いたり、地震の揺れの体験、火災の煙に巻かれる体験活動を行ったりした。災害時における、命を守る行動について、実際に体験しながら学ぶことができた。今回の学習を通して、命の大切さを再確認するとともに、災害時には、その大切な命を守るために、自分で行動することの大切さについて学ぶことができた。 |   |
| 35 | 湘南三浦 | 小4 | 社会 | 「地震にそなえるまちづくり」     | 関東大震災から100年の節目の年に、社会科の「地震にそなえるまちづくり」の授業を通して、自分の命をまもるために、大切な人の命を守るために、自分ができることを考え話し合いを行った。三浦市の防災危機対策室の方に来ていただいたり、保護者の方々に「東日本大震災」の体験談を話していただいたりすることで、実感を伴った授業であった。子どもたちは、自分の命を守ることが大切なこと、自分の命を守ることは他の命を守ることでもあるという話を聞き、「命の大切さ」を考える機会になった。                         | 三浦市防災危機対策室                                |
| 36 | 湘南三浦 | 小3 | 社会 | 地震にそなえるまちづくり       | 「地震にそなえるまちづくり」を学習した後、横浜市民防災センターを見学した。震度7の揺れを体験する「地震体験」や講話を通して、地震の怖さを実感することができた。「消火器体験」や「煙退避体験」を通して、火事の怖さと発生時の行動などを学ぶことができた。教科書を使った学習に加え、体験を通して、自分の身は自分で守る方法やまちづくりについて考え、防災意識を高めることができた。学校行事として実施した避難訓練では、学んだことをもとに真剣な姿勢で取り組むことができた。                             | 社会見学<br>(横浜市民防災センター)<br>健康安全的行事<br>(避難訓練) |
| 37 | 湘南三浦 | 小5 | 社会 | 国土の自然とともに生きる       | 日本の自然豊かな国土や自然環境から自然災害を考えた。日本海側は雪が多いことや、太平洋側で大きな地震が多いことなど、その土地だから起こりうる大きな自然災害は多い。自然災害から暮らしや命を守るために、災害ごとにどのような施設やまちづくりの工夫があるかを探した。1月に発生した能登半島地震のような、大地震や津波に備え、国や県はにげおくれなくしくみづくりを作っていて、それが児童の命を守ることや自分自身の命を守ること、自然と向き合っていくことの大切さを学習した。                             |   |
| 38 | 湘南三浦 | 小3 | 社会 | くらしを守る人たち          | 自分たちの町で町民の生活を守り、豊かに暮らしていける環境を作るために働いている警察署、消防署の人々の考えや働く様子を学んだ。また、その学習を通して、「いのち」を尊重する心について理解するとともに、自ら「いのち」を守るための行動についても、防災訓練等を生かしながら学んだ。   | 茅ヶ崎警察<br>茅ヶ崎消防                            |
| 39 | 湘南三浦 | 小6 | 社会 | 日本国憲法の三つの原則        | 日本国憲法の考え方や仕組みを学んだ後、基本的人権の尊重、平和主義について調べ学習に取り組んだ。基本的人権の尊重については、障がいのある人に対する差別や偏見、男女の性別による差別について考えをまとめた。平和主義については、日本の過去の戦争の経験からこれからの平和な世界に向けて子どもたち同士で議論し考えを深めることができた。   |   |

|    |    |    |    |                     |  |  |
|----|----|----|----|---------------------|--|--|
| 40 | 県央 | 小3 | 社会 | 防災教育「地震・火災からいのちを守る」 | 「学校にいないときに火事、地震が起きた時にどうする。」という問いかけから授業を進めた。119番通報をしたら消防署につながると思っている児童がたくさんいた。そこで通信指令室からどのように現場に出動するのかを伝え、消防署の仕事を学ぶため消防署見学を行った。1分1秒が傷病者の命を救うことを学んだ。また、防災センターの見学を行い、地震体験を通して改めて地震の恐ろしさを知った。災害が起きた時、まずは一人ひとりが自分の命を守り、それから共助を行うことを学んだ。                                   |  |
| 41 | 県央 | 小4 | 社会 | 地震からくらしを守る          | 本授業では、地震が発生時の話や被害にあった場所の写真から、地震が発生するとどんな被害が出るのかについて考えた。学びを通して、命を大切にすることをねらいとした。導入では、教科書の被害にあった場所の写真をから、地震の恐ろしさについて考えた。その後、地震が発生した時の話を読み、地震が発生するとどうなるのかについて考え学んだ。終末では、「地震が発生すると様々な被害があり、命の危険にさらされる。」「自分の命は自分で守る。」という考えをもたせることができた。                                    | 4年 小学社会4（東京書籍）   |
| 42 | 県央 | 小6 | 社会 | 戦争と平和               | 日本の戦争を学ぶことで、児童たちは歴史的な出来事やその背後にある要因を理解し、歴史の中で命がどのように影響を受け、犠牲になったかを知った。また、戦争の痛みや苦しみをすることで、児童たちは平和への願いや平和の大切さを感じていた。命が戦争によって奪われることの悲劇を理解し、平和を望む気持ちが芽生えていた。  | 教材：「戦争と人々のくらし」<br>教育出版   |
| 43 | 県央 | 小4 | 社会 | 地震に備えるまちづくり         | <ul style="list-style-type: none"> <li>地震や津波に備える地域の取り組みについて調べる活動を通して、市や県などの関係機関の協力の仕組みについて学習した。</li> <li>地震が起こると、どのような危険があるのかを考え、その際に、命を守るための具体的な方法などについて、映像や写真、テキストを用いて学習した。</li> <li>シアターや展示物の見学、地震体験コーナーなどを通して、命を守るための実践的な行動や知識を学び、日頃の意識向上につなげることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>海老名市防災学習テキスト（デジタル）</li> <li>神奈川県総合防災センター見学</li> </ul> |
| 44 | 中  | 小6 | 社会 | 戦争と人々の暮らし           | 歴史の中で語られる数々の戦争について学習をした。太平洋戦争によって多くの人が犠牲になったことを学んだ。特に、沖縄戦で犠牲になった市民がいることや、世界で唯一原子爆弾の被害を受けた広島・長崎の様子を写真や新聞で確認し、戦争の怖さ・命の大切さを感じることができた。また、国語の学習で行っている『ヒロシマのうた』も読み、戦争によって離れ離れになった人がいることも理解できた。今、安全な生活ができていることや命があることに感謝の気持ちを持ち、命を大切にしようという思いをもつことができた。                     | 図書館にある戦争関連の本<br>戦争時の新聞   |



|    |    |    |    |                              |  |  |
|----|----|----|----|------------------------------|--|--|
| 45 | 中  | 小6 | 社会 | 大陸に学んだ国づくり                   | <p>遣唐使船での渡航の様子から、「どうして危険をおかしてまで大陸に渡ろうとしたのだろう」という問題で話し合った学習では、大陸の文化を取り入れたこと、政治の仕組みや制度を学ぼうとしたという事実をもとに、自分が7世紀に生きた人間だとしたら「渡る」か「渡らない」かを自分ごととして考えられたのは、とてもよかったと考える。</p> <p>大陸からの進んだ政治の仕組みや文化を学んで、国を発展させようとする気持ちで自分だったら大陸に渡ると考える子どもと、その理由を理解しながらも命を失いたくないという考えを述べる子ども、どちらの立場をとったにせよ人の生き方や命の問題にも迫る内容であった。</p> | 社会科資料「遣唐使船」  |
| 46 | 中  | 小6 | 社会 | 平塚空襲の体験を聞く                   | <p>12歳の時に平塚市の「須賀」地区で空襲を体験された江藤さんのお話を聞くことを通して当時の状況・被害や戦争の恐ろしさを知るとともに平和の尊さや大切さを感じることをねらいとして授業を行った。空襲によりご家族を亡くされたつらい経験を語っていただいたことで、戦争や空襲をより身近に感じる事ができ、児童一人一人が自分の家族や友達を大切にすることを再認識することができた。お話を聞いた後は折り鶴を折り、平塚市総務部行政総務課を通して、広島市平和記念公園に献納した。</p>  | <p>講師：平塚の空襲と戦災を記録する会<br/> 教材：資料「7月16日平塚空襲の投弾範囲」、「米軍資料に見る平塚大空襲」</p> |
| 47 | 中  | 小4 | 社会 | 防災教育「自然災害にそなえるまちづくり」         | <p>学校敷地内にある「防災備蓄倉庫」の中を見学した。災害に備え、避難所開設のために必要なものが、整然と分かりやすく置かれていることに、子どもたちは驚いた様子だった。市役所の方から、災害が起きたときにみんなで協力することの大切さ、また、それぞれの機関と役割について説明していただいた。さらに11月には、校外学習として防災センターに行き、地震や風水などの体験をし、命を守るための行動について学んだ。</p>   | <p>(講師)<br/> 市役所防災課職員<br/> (校外学習)<br/> 県立防災センター</p>                |
| 48 | 中  | 小4 | 社会 | 「安全な暮らしとまちづくり～災害からまちを守るために～」 | <p>本学年の児童達は東日本大震災の頃はまだ生まれておらず、経験したことのない大地震や自然災害を想像するのは難しいことだった。しかし、実際に自分たちの地域が被災したときの様子を写真と共に説明してもらったり、身近にあるもので作成できる防災グッズを実際に作成したりする活動を通して、改めて自分事として災害への対応を考える機会になった。学習後には、「“命を守る行動を”ってニュースで言ってたね」「実際にはどうしたらいいのかな。」と自分たちの命を守るためにできることについて話し合う姿が見られた。</p>   | 伊勢原市危機管理課  |
| 49 | 県西 | 小6 | 社会 | 戦争と人々の暮らし                    | <p>太平洋戦争期の人々の暮らしと戦争の悲惨さについて、「この世界の片隅に」を視聴して学習した。空襲の様子や、その中でも必死に生活を工夫しながら生き抜いていく人々の姿をみながら、平和と命の大切さ、ありがたさを学んだ。</p>   | この世界の片隅に映像資料   |

|    |    |    |    |                     |   |   |
|----|----|----|----|---------------------|---|---|
| 50 | 県西 | 小4 | 社会 | 地震にそなえるまちづくり        | <p>地震や津波が発生した時に、自分の身を守るためにどう行動すればよいかを考えた。「はしれ、上へ！つなみてんでんこ」（2013年、文：指田和）を読み、津波が起きた時に助かった人たちの経験から具体的に学ぶことができた。</p> <p>また、小田原市役所の防災課から講師を招き、地震に備えるために今自分たちができることについて学んだ。富士山の噴火や川の氾濫も含めた自然災害について幅広く話を聞くことができた。授業での話し合いでは、自分だけではなく、すべての人が命を守っていくために、様々な人が協力していることに感謝し、自分も力になりたいと考える児童もいた。授業を総じて防災に備える意識が高まった。</p>    | 小田原市役所<br>防災課職員<br>パワーポイントや質疑応答の時間を多く設けていただき、実感として学習することができた。 |
| 51 | 県西 | 小5 | 社会 | 情報と私たち～東日本大震災から考える～ | <p>東日本大震災を題材に、情報の単元を計画した。</p> <p>単元の初めに、大震災で亡くなった人数を示した。子供たちはその数の多さに驚きつつも、亡くなった理由が津波によるものであることを知った。子供たちの中で「津波から逃げるような情報は出なかったのか？」という疑問が挙がった。そこで陸前高田市役所で最後まで呼びかけを続けた方の話、石巻日日新聞社の手書きの新聞記事、釜石中学校生徒の行動などを紹介した。資料を吟味することで、情報と関わり方が見えてきたようである。子供たちの中で、「情報は便利なものだが、自分で取捨選択・判断するもの。」という捉えが生まれた。今後、単元全体のまとめを行う予定である。</p> | 【参考資料】<br>☆東日本大震災に関する新聞記事<br>☆手書きの新聞記事の写真（石巻日日新聞社）            |
| 52 | 県西 | 小6 | 社会 | 戦争と人々の暮らし           | <p>今起きている戦争を調べ、過去日本がしてきた戦争をさまざまな人の立場から見つめなおすことにより、戦争は人の命を奪うだけのもので、どんな理由があってもやってはいけないということを知った。今私たちが暮らす日本が平和でいられることがとても素晴らしいことだと考え、平和を守り続ける努力をする必要があるということに気がつく児童が多くいた。</p>  | 小学社会（教科用図書）<br>戦争中の教科書<br>講師：小田原地方史研究会代表                      |
| 53 | 県西 | 小4 | 社会 | 自然災害にそなえるまちづくり      | <p>自然災害とはどのような事があり、どういった影響が出るのかを考える授業を行った。自分たちの地域で起こりうる災害を児童に問いかけることで、自分事として考えられるようにした。災害の様子を写真や動画で見せると、「これって日本なの？」と驚いている様子だった。また被災前後の写真を比べることで、災害によって日常が変わってしまうことや被災地も自分たちと同じように生活していたことを知った。これらの活動を通して、備えの大切さを考える児童もいた。</p>   | 教育出版<br>小学社会4<br>「自然災害にそなえるまちづくり」<br>NHK for school           |
| 54 | 県西 | 小4 | 社会 | 防災教育「地震にそなえるまちづくり」  | <p>災害による被害について、ニュースなどを見てイメージしている児童は多いものの、中井町ではどんな被害が想定され、どんな対策をしているのか知らない児童がほとんどだった。そこで、学校にある防災倉庫や貯水槽を見学し、具体的な物品や設備を学んだ。単元後半では、「災害が起きた際、自分たちにもできることがあるのか」という話題が上がった。児童は、家で防災用品を3日分備えるようにしたい、避難所では水や毛布を運ぶ手伝いをしたいなど、これまでの学習を生かした具体的な考えを話していた。</p>   | 講師<br>町役場 地域防災課の職員  |

|    |    |    |                                |   |   |
|----|----|----|--------------------------------|---|---|
| 55 | 県西 | 小4 | 社会<br>「自然災害にそ<br>なえるまちづく<br>り」 | ハザードマップで地域の特徴を確かめ、自分たちの地域でどのような自然災害が起こるのか話合った。自然災害から命や安全を守るために、家庭や学校、地域での取組みについて調べた。2つの見学をとおして、町と住人が協力し合うこと、日頃から必要な備えや自分たちにできることなどを考える大切さを実感していた。 | 神奈川県立総合防災センターへ校外学習を実施。町の防災安全課の職員に出前授業を依頼。おおい中央公園の防災設備の見学。 |
|----|----|----|--------------------------------|---|---|